

# 第18回 全国登山研究集会 参加報告書

報告者 野田久生（かがりび山の会）、田中康男（ふわくハイキングサークル）  
羽鳥健一郎（東葛山の会）、山本久美子（かがりび山の会）

日時 2022年10月29日（土）～30日（日）

場所 ホテルコンチネンタル府中 会議室

参加者 全国の登山会員 81人 + 特別講師 伊藤圭氏

## 研究集会の目的

登山技術、安全登山、平和と登山、登山文化の継承、自然保護等の問題を議論し、登山の運動、組織の発展につなげる。（浦添会長の挨拶より）

## 日程表 29日（土）

13:00～ 開会、挨拶 会長 浦添嘉徳

13:10～ 基調報告 理事長 川嶋高志

13:35～ 記念講演

「山と人と街プロジェクト」

伊藤新道の復活

講師：伊藤圭氏

15:30～ 各分科会に分かれて討議

第1分科会 山小屋の諸問題

第2分科会 登山道と遭難対策

第3分科会 岩場のマナーとアクセス問題

第4分科会 魅惑のトレイル その楽しみ方

19:00～22:00 夕食・交流会

## 30日（日）

8:30～ 全会会議 各分科会の報告

9:30 終了

## オプション

A:高尾山での読図体験、スマホアプリ YAMAP の使い方（田中、山本参加）

B:読図体験はAに合流

C:室内ジムでの注意点 PUMP2KAWASAKI でのクライミング体験



第1回は52年前に開催されたが、途中しばらく開催されていなかった。コロナで開催できなかったこともあり、今回ようやく開催された（全国連）。県連からの4人は、初めての参加でしたが、内容のある交流集会でした。

## <参加報告>

### 1. 記念講演 「山と人と街プロジェクト」 伊藤新道の復活 伊藤圭 氏

ご存じの方も多いと思いますが、黒部の山奥の三俣山荘と、伊藤新道復活の現状とこれからの活動をPP（パワーポイント）で説明して頂きました。資料は公開されていませんので少し撮った写真を付け加えます。

#### ・趣旨（伊藤氏）

- 1) 伊藤新道は、湯俣エリアを中心に大町市街地から黒部源流までを包括した広大な山岳エリアを活かし、利用者が濃密で発見に満ちた体験ができるフィールドを構築する。
- 2) 北アルプスにおいての利用と保全のバランスを整える。

#### ・講演の要点（参加者コメント）

- 1) 現在の山小屋経営は赤字である。  
 今後は会社形式にして運営していくスキームが求められる。  
 現地の風景は価値がある。  
 非日常体験ができる。  
 風景の価値に応じた入山料も考えられる。
- 2) 信濃大町⇒七倉⇒高瀬ダム⇒湯俣温泉（山荘新築） 価値あるエリア  
 ウルトライトハイキングの広まりにより、行政も乗り気である。
- 3) 伊藤新道の再生は、自然と調和した内容としている。沢歩き経験者以上か、ガイド付きのグレードとする。今後湯俣温泉（山荘）の人气が高まりそう。



伊藤新道復活プロジェクト

新しい伊藤新道のコンセプト

時がたち、2022年現在、アウトドアアクティビティの多様化、人々が自然に求める精神性もレジャー志向からより密着の深い自然体験へとシフトしてきています。伊藤新道の復活においては、その特異な景観、火山・温泉、原生林等を活かして、より純粋で発見に満ちた自然体験ができるフィールド作りと、同時に利用者全員で保全できる仕組み作りを目指す

1. 道自体の歴史や自然体験を楽しむトレイル
2. ルートファインディングによるセクションがある
3. 環境インパクトを最小限にするため、工作物の設置を最小限にする
4. 沢歩き経験者以上か、ガイド付きのグレードとする
5. 管理者、利用者、行政全体で保全する

伊藤新道復活プロジェクト

2022年6月	2022年10月	2023年4月	2023年7月	2023年8月
資金調達 CAMPFIRE クラウドファンディング	新第2吊り橋・ 新第3吊り橋 タラップ・棧橋	登山道整備 保開道	避難小屋 建設 茶屋	本開通
2022年5月 湯俣山荘の約35年ぶりの再開に向け、改修工事の開始		2023年1月 湯俣エリアの整備、エコツアーの開始		

#### ・その他

9月25日の日経新聞にも大きく取り上げられていましたが、クラウドファンディングの利用など様々な活動を行っておられます。

当日紹介された昔の写真などは、次の本に掲載されているものが多く使われていました。 定本「黒部の山賊」著者：伊藤正一（山と溪谷社）

## 2. 第18回 全国登山研究集会に参加して

田中康男

記念講演会で 三俣山荘の支配人伊藤圭さん  
湯俣山荘から三俣山荘への伊藤新道復活の記録、道の中に「ビバークしてみたら」、  
「ポイントなどを作る」山に携わっている人ならではのアイデアが印象に残った。

### 私が参加した 第2分科会 登山道と遭難対策

(事前に読んだが 終わってから読むほうが良かったので 抜粋)

- 1) 遭難事故で通行禁止になった。自然豊かでさまざまな登山技術が学べるルートで登山道整備のありかたと予算 (福岡県)
- 2) 南八甲田登山道 自然保護団体と自負する・・・ 木を切ることはもちろん刈り払いも出来ず、道迷いが
- 3) 下山中の登山道が事故最多の場所
4. 私有地公有地の登山道整備の在り方 便利な YAMAP YamaReco 等の弊害も検討すべきだ (私も使用中整備した所は YAMAP にそれとなく残す事に 日時・位置情報は正確)
- 4) 冬期間でも手軽に歩ける。石巻緑のハイキングロード、みちのく潮風トレイル、整備状況、交流会・協同活動実施、うまくいっている 行ってみたい整備状況
- 5) 香川県徳島県の県境(私有地)地域で通行止め
- 6) 里山の登山道が勝手に増えて行く。草木を無許可で栽培している (佐貫富士)
- 7) 豊橋自然歩道 一部路線廃止し協議会から豊橋市に移管、ボランティア団体の記録をしてパトロールを実施
- 8) 福井県から登る「白山」 簡単に登れる人気ルートで駐車場が不足
- 9) 最後に三俣山荘 伊藤敦子氏からの発言があり。この分科会に参加したみんなに感動した。現場の人の話は聞く物だ！
  - ・登山道の整備費は、宿泊費の中から 50 円充てられている (何も出来ない) でもお金があってもやる人が居ないのも現状
  - ・どう道を整備するとか どこまで枝を切るとか等 決め事はむずかしい。その場その場で対応するしかない
  - ・一般登山道の整備は、登山者のためでなく山らしさを保つため。山をまもる、道をまもる、景色をまもる
  - ・入山料は、現地の景色がデズニーランド並みの価値…と考えると、それに相当した金額設定も・・・

## 3. 分科会「魅惑のトレイル、その楽しみ方」に参加して

羽鳥健一郎

参加者は、一般参加者と全国連関係者合わせて 22 名でした。

15:30~18:30 に以下の報告があり、その後、質疑応答がありました。報告が多岐に

わたり時間が足りないくらいでした。

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| ① 吉備路の山全山縦走大会         | 岡山・倉敷 HC          |
| ② 旧街道をたどるシリーズ企画       | 東京・太田 HC          |
| ③ 近場のウォーキング・トレイル      | 同上                |
| ④ 信越トレイル              | 京都・田辺山友会          |
| ⑤ 京都トレイル              | 千葉・かがりび山の会        |
| ⑥ 女二人、裏剣に行く           | 埼玉・新座山の会/大宮勤労者山岳会 |
| ⑦ ブータン遊牧民の生活と花の回廊トレイル | 東京・石神井山の会         |
| ⑧ スペイン巡礼              | 栃木・野木山の会          |

① は、コロナのため今年中止でしたが、県外からのリピーターもあり来年は同時期に開催予定とのこと。

②、③は、手作りのトレイルです。継続しているのはリーダーの努力と会の結束の固さを感じました。

④、⑤は、私も歩いたコースなので当時と比較しながら聞きました。信越トレイルは昨年、追加された新たなコースの紹介もありました。京都トレイルは数年前の台風で山道が倒木で埋まりました。復旧作業は大変なご苦労があったと思います。

⑥は、経験と力量が無いと行けないコースですが臨場感のある報告でした。

⑦、⑧は、パワーポイントを使いビジュアルな報告でした。海外に行った気分になりました。特に⑧は個人的に関心があったため費用も含めた具体的な話は良かったです。いずれの報告も行ってみたいくなる話が多かったです。

(その他)

伊藤さんの講演は、山小屋経営が瀕死の状況にある中で 10 年後を見据え挑戦する姿勢がひしひしと伝わってくる話でした。全国組織の山の会が連帯して支援体制を作れないものか？山における水とトイレは以前からの大きな課題です。近年の企業の経営理念や経営方針には環境保全、サステナブル、SDG s 等々の言葉が散見されます。

「南アルプスの水」などの商品を出している企業もあります。

全国組織の山の会が連帯して山小屋支援や環境保全のために企業とタイアップした対策が取れないものか？伊藤さんの熱い話を聞きながら、そんなことを感じました。

#### 4. オプション A : 高尾山での読図体験スマホ・アプリ=YAMAP の使い方に参加して

山本久美子

秋晴れの気持ち良い日、全国の労山会員仲間と JR 高尾駅北口からケーブル高尾山駅まで金毘羅台コースを歩きました。予めダウンロード(W i -F i 環境を推薦)し山中では電池の消耗を防ぐため「機内モード」を設定、紙の地図をメインに要所や分岐で現在確認する事を体験しました。カメラとして写真を撮ると撮影時刻も記録されるので行動記録にもなります。Google レンズで登山道に咲く花を検索して名前を調べました。予備バッテリーの持参、下山時の YAMAP 終了など改めて注意もありました。

紅葉の見頃、人の少ないコースで渡り蝶のアサギマダラを見かけたのは幸運でした。

解散地のケーブル駅周辺は多くの登山者で賑わい高尾山の人気を実感しました。



田中康男

御岳山に YAMAP の使い方講習に行きました。そんな機能もあったのかという発見がありました。ただ講習とはいえ歩きスマホ登山になった。私は歩き始めと終わりに操作するだけ。イザという時、地図が拡大・縮小で見られるのが心強い。

(終了しないと家まで道案内)

以上

参考：伊東圭氏説明の信濃大町アクティビティ MAP (パンフレットのコピー)

